

各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。  
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

## 平成28年11月のきごころ通信 (先月の話題)



### 太陽の塔に内部があるって知ってる？

**2年後、遂にその内部が解禁予定！**

**平成30年3月に、太陽の塔の内部公開予定**

博覧会開催時は塔の内部に入ることができましたが、以後1階から最上階までは非公開。

太陽の塔の耐震改修工事や塔内部の「生命の樹の生物群」、そして博覧会当時に地下展示空間にあった「地底の太陽」などを当時の姿に再生した後、平成30年3月に全面公開を予定。

(2016年10月1日 大阪府政だより10月号記事から抜粋)



### 雑談上手は聞き上手

### 答えやすい質問はさむ

## 気の利いた言葉いらず 間の取り方で安心感 意識的に1.5秒

- ・相手にたくさんしゃべってもらうことが雑談を成功させる秘訣。
- ・「話しやすい人」を目指すこと。相手に教えてもらう姿勢で話をする。
- ・相手が答えやすい質問：①相手の身の回りのこと②相手の過去について。
- ・仕事の三大過去話：「苦労話」「失敗談」「若手のころの話」。
- ・適切なリアクション：「のけぞる」「乗り出す」「目を見開く」。
- ・自分が話すときは、相手がいつでも口を挟めるよう、意識的に1.5秒ほどの「話の切れ目」を設けます。
- ・会話中に「3秒以上の長い間」ができると、人は不安や気まずさを感じ始めます。
- ・相手が話す内容を考えているときに、せかしたり遮ったりすることは「相手に対する強い否定のメッセージになります」。

(2016年10月4日 日本経済新聞記事から抜粋)



各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。  
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

## 人間の寿命 125歳が限界 米研究グループが予測

- ・米アルバート・アインシュタイン医科大学の研究グループは、各国の死亡年齢などの統計データをもとに、人間の寿命には限界があるとの研究結果を発表。
  - ・世界最高齢の人が125歳を超える確率は1万分の1未満で、それを超えて生きられる可能性は低いとしています。日米英仏の死亡統計などを分析。
  - ・これまで世界最高齢の人の年齢は伸び続けていて、人間の寿命には上限がないとの見方もありましたが、1997年にフランス人のジャンヌ・カルマンさんが122歳で死亡してから記録は更新されていません。
- (2016年10月6日 日本経済新聞記事から抜粋)

## 配偶者控除、存続し要件拡大 世帯主の年収で制限案

- ・政府・与党は、2017年度税制改正で、専業主婦を優遇する配偶者控除の廃止を見送る方針。
  - ・配偶者（妻）の年収要件をいまの「103万円以下」から引き上げる小幅な見直しにとどめる方向で検討。
  - ・世帯主（夫）の年収が1000万円超の世帯は適用対象から外す案。
  - ・配偶者控除は、妻の年収が103万円を超えなければ、夫の所得から38万円を引いて納税額を減らせる仕組み。
  - ・配偶者控除を残して妻の年収要件を「150万円以下」などに引き上げる仕組みを軸に検討。
- (2016年10月7日 日本経済新聞記事から抜粋)

## ゼネコン、コスト減が寄与

### 4~9月純利益 大林組47%増410億円 鹿島は年配当14円

- ・大手ゼネコンの業績改善が続いています。大林組は、2016年4~9月期の連結純利益が前年同期比47%増の410億円、鹿島は同2倍の470億円になったと発表。
  - ・建築単価が高水準で推移しましたが、労務費や資材費のコストは期初想定を下回り、利益率が上向きました。
- (2016年10月12日 日本経済新聞記事から抜粋)

各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。  
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。



### **大成建設、純利益12%増 4~9月 通期も上振れの公算**

大成建設は、2016年4~9月期の連結純利益が前年同期比12%増の352億円になったと発表しました。労務費や資材費など建設コストも想定ほど上昇しておらず2017年3月期の利益も計画を上回る見通し。4~9月期の売上高は前年同期比11%減の6460億円。

(2016年10月25日 日本経済新聞記事から抜粋)



### **迂回路 安全基準なく 東京 鉄パイプ落下で歩行者死亡 道路幅や誘導法、現場任せ 専門家「国や業界、策定を」**

(2016年10月25日 日本経済新聞記事から抜粋)

各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。  
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。



## 75歳以上、子ども上回る 国勢調査確定値

### 総人口初の減少 2015年

総務省は、2015年国勢調査の確定値を公表。外国人を含む総人口は2015年10月1日時点で1億2709万4745人となり2010年の前回調査から約96万人減少。

75歳以上の人口は1612万人と総人口の「8人に1人」を占め、初めて14歳以下の子供（1588万人）を上回りました。

#### 外国人、5年で6%増

日本人に限った人口は1億2428万人と107万人減少。日本に在住する外国人は10万人増の175万人と過去最高を更新。

総人口のうち、男性は61,841,738人、女性は65,253,007人。

総人口の世界順位は10位で5年前と変わりませんでした。2010年から2015年までに人口が減ったのは、上位20か国で日本だけでした。

#### 単身世帯、1/3超す 若い男性や高齢女性 30代男性未婚率、初の低下

世帯数は一人暮らしの増加で5344万世帯と過去最高を更新。単身世帯は34.6%を占め、男性では25~29歳、女性では80~84歳が最も多くなっています。男女65歳以上の6人に1人が一人暮らし。

全体の未婚率は27.3%と、5年前に比べて0.2ポイント低下。

世帯の平均人数は2.33人と0.09人減りました。

#### 近畿 働き手世代6.2%減 生産性の向上が急務

##### 郊外→都心 流れ加速

近畿の人口は2072万人と、2010年の前回調査から177,000人（0.85%）減少。増加から減少に転じた大阪のほか、滋賀を除く4府県の減少率が拡大し、近畿全体でも68年ぶりに減少しました。

働き手の生産年齢人口（15~64歳）も縮小し、1236万人と82万人（6.2%）減りました。

大阪府が25,000人（0.3%）の減少に転じました。

近畿で人口増加率が最も高かったのが大阪府中央区の18.3%。浪速区、北区、西区で人口増加率が105を突破しました。

（2016年10月27日 日本経済新聞記事から抜粋）